

I 研究主題

「夢をもち、夢を実現する子ども」 ～『つかむ・ふかめる・ふりかえる』1時間の授業づくり～

1 研究主題設定の理由

本校は、創立137年の伝統をもつ学校である。みなとみらい地区が近くにあり、周辺には、横浜市中央図書館、野毛山動物園などがあり教育施設に恵まれている。また、1年生でも5分で行ける掃部山公園が近隣にあり、校庭の周りは大きな木に囲まれ、実をつける木も多く、緑豊かな環境がある。地域は住宅地が中心であるが、百年を越す歴史をもつ老舗があったり、伝統の技を受け継ぐ職人がいたり、昔ながらの雰囲気が残っている。地域には、子どもたちの登下校を見守りあいさつや会話を交わして下さる方や、子どもたちの学習活動や発表に励ましの言葉をかけて下さる方、子どもの質問や依頼に笑顔で答えて下さる方等、本校を卒業した保護者や学校と共に歩んできた地域の方々が多くいる。こうした恵まれた環境の中で、まちや人と関わることのよさを実感し、子どもたち自身が戸部のまち、そこに住む人を中心に、自然・社会の事物現象に主体的に関わり、自らが答えを求めて動く姿を期待し、研究主題を「自ら学びを創りだす子どもの育成」と設定し、平成15年より総合的な学習の時間（以下、総合）・生活科の研究に取り組んできた。その成果として、地域との関わりを大切にしながら、そこに住む人々の幸せを願い、学級の仲間と共に、探究的・協働的に学びを展開しようとする子どもの姿が見られるようになってきている。

一方で、その間に子どもたちを取り巻く社会・環境が変わってきた。指導要領の改訂も含め、生活科・総合に求められることやその在り方も、研究当初からは少しずつ変わってきている。そのような状況の中で改めて「学びを創りだす子どもの育成」という研究主題を見つめ直したいと考えた。即ち、「子どもたちが創りだす『学び』は、学級・学校の中で完結させるものではなく、実際の生活や地域における生き方・考え方へとつなげていくことこそが重要である」という考えに立つことが、改めて重要であると考えたのである。

そこで、これまでの研究の成果と課題を踏まえ、子どもたちが将来生きていくこれからの社会の中で、夢をもち、その夢の実現に向かって考え、行動し続けようとする姿を目指し、研究主題を上述のように設定した。

2 研究主題の意図

(1) 「夢をもち子ども」とは

現在の社会には多様な問題が存在する。環境・エネルギー・国際問題・少子高齢化・過疎化等々、グローバル・ローカル、どちらの視点から見渡しても、解決の難しい問題が山積している。しかし、今、目の前にいる子どもたちには、そうした問題としっかりと向き合い、そして解決していかうとする大人になってほしいと願っている。そして、その問題の解決にあたっては、自分にとって、みんな（家族、友達、地域等の肌で感じることのできる隣人、ひいては社会、日本、世界、さらには環境、未来）にとって、意味や価値のある、よりよい「～したい」という思いや願いをもつことができること、即ち、夢を描けることが必要である。そのためには、様々なひと・もの・ことと関わる中で、その対象のもつ意味や価値を子どもが実感をともなって自分事として受け止めたり、自分とは異なる他者のものの見方や考え方等、多様な価値観を受け止めたりしていくことが重要であると考えている。

(2) 「夢を実現する子ども」とは

いくら素敵な「夢」を描くことができても、それが夢のままで終わっては子ども自身が生きていく生活や社会は子どもが願うものになっていかない。その夢を実現するための力を子どもたちに確実に育てていきたい。具体的には、次のような資質・能力の育成を目指していきたい。

- i 戸部のまち（子どもたちの家庭・学校・地域における、実生活の営みや社会との関わり）に対して夢をもち、その実現に向けて粘り強く取り組む資質・能力
- ii 夢の実現に向けて、課題を見出し、その解決に向けて構想を立てて、全身を使って情報を収集し、それをもとに、分析的に思考し、判断したり表現したりする資質・能力
- iii あらゆる他者と対話を通して双方向的に関わり、信頼し合いながら力を合わせて取り組む資質・能力
- iv 対象のもつ意味や価値を理解し、戸部のまちには魅力的な対象がたくさんあることや、自分たちを受け止め、支えてくれる大人の存在を感じ取ったり、自分自身の成長や変容に気付いたりし、戸部のまちに対して、よりよい夢を描こうとする資質・能力

II 研究内容～研究主題の実現に向けて～

研究主題に示した、「夢をもち、夢を実現する子ども」の具現化に向けて、「単元構想・小単元構想・授業づくり」の三つの柱で研究に取り組む。

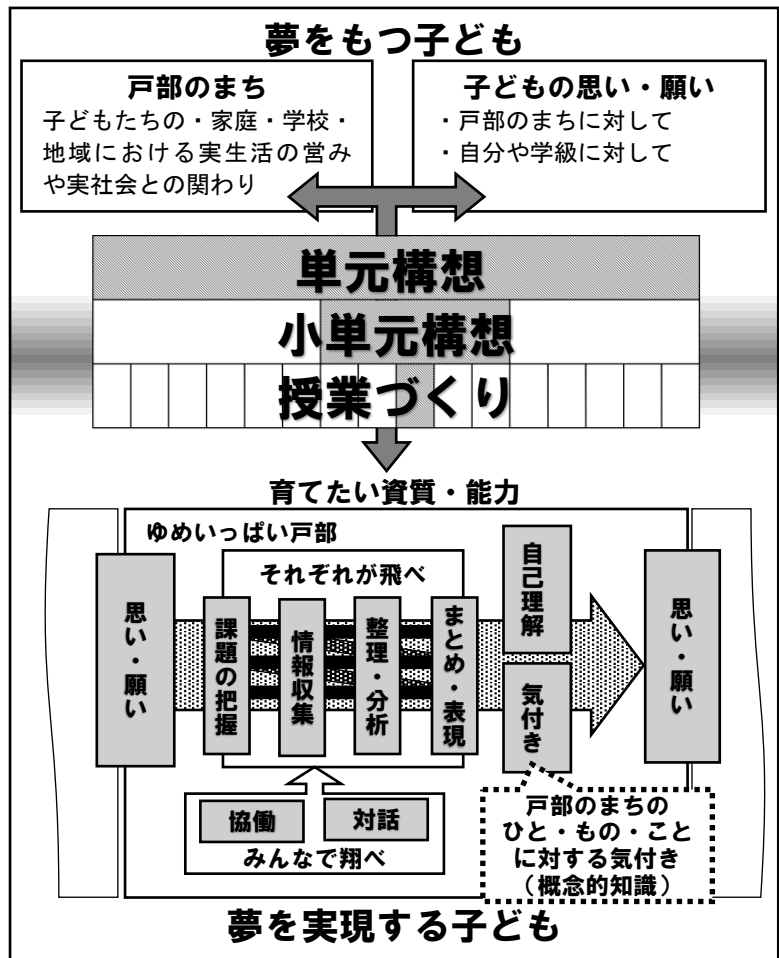
まずは戸部のまちと子どもたちの関わりを見つめ直し、子どもの思い・願いに沿って学習材を選定し、活動の目的（＝夢）を設定し、単元を構想する。

次に、その実現に向けて解決すべき課題を明確にし、育てたい資質・能力を具体化しながら、他教科との関連も踏まえ、小単元を構想する。

そして、その課題の解決に向けて、前時までのみとりをもとに期待する変容を明確にし、その変容に向けた手だてや授業の組み立てを考え、1時間1時間の授業づくりに取り組む。

そこで見られた子どもの具体的な姿をもとに子どもの育ちや思い・願いをみとり、必要に応じて見直しを図りながら、単元・小単元を構想し直していく。

以上のプロセスを通して、資質・能力の育成、そして子どもの夢の実現を目指していく。そのような学びを成立させるための具体的な視点として、三つの柱に沿って研究内容を整理する



1 単元構想

子どもの思い・願いに沿って学習材を選定し、子どもとともに活動の目的（＝夢）を設定し、その追究の過程で、子どもに育てたい資質・能力を明らかにし、子どもが大きく変容する「学びどころ」を意識しながら学習活動の流れを組み立てる。

(1) 子どもの実態

- 戸部のまち（子どもたちの・家庭・学校・地域における実生活の営みや実社会との関わり）に対する興味・関心、思い・願いをみとり、分析しているか。
- 子どもが生活科や総合で目指したい自分や学級について考えているか。
- 子どもが材に対して強い思いや願いをもっているか。

(2) 学習材について

- 学習材及びテーマ（＝単元を通して実現を目指す活動の目的）が明確になっているか。
- 子どもにとって身近で繰り返し関わることのできる対象か。
- 材に対して造詣の深い、関わりが期待できる「人」がいるか。
- 子どもにとって学ぶべき意味・価値のある内容があるか。また、教育課題や生活科の内容が明確になっているか。
- 内容に迫る子どもの姿が記述や発言等のレベルで具体的に分析されているか。
- 多面的・発展的に分析されているか。

(3) 単元目標

- (1) (2) の内容に基づき、単元を通して達成を目指す活動の目的（＝夢）、子どもに育てたいものの見方や考え方・生き方が分析されているか。

(4) 単元で育てたい資質・能力

- 「育てたい資質・能力」に迫る学習活動が明確になっているか。
- 「それぞれが飛べ」「みんなで翔べ」「ゆめいっぱい戸部」の三つの子ども像をもとに具体化されているか。
- 戸部のまちとのつながりが見えるように具体化されているか。

(5) 単元の学習活動の流れ (生活科：本単元の位置づけ)

- 子どもにとって新たなものの見方や考え方、生き方に迫るような変容が見られる「学びどころ」が分析されているか。
- 各小単元 (生活科は単元) の課題が、学習活動の流れに沿った、子どもにとって切実なものになっているか。
- 生活科では、学習対象が子どもに身近な地域の固有のものとして分析されているか。
- 期待する子どもの変容が、迫りたい価値や次の課題へのつながりを意識した具体的なものになっているか。

とべまちSMILE防災隊 第6学年2組 24名 鈴木 紀知

1 単元の構想

(1) 子どもの思いと教師の願い

4月、6年生として取り組む、小学校の最後の総合をどのようなものにしていきたいか話し合ったところ、「戸部の町やそこに住むいろいろな世代の人と関わってみたい」、「一方的じゃなくて、地域の人が本当に専らと取り組まない」という意見があった。その過程で、昨年発生した大震災の被災地である青古市の小学校と関わった6年生の活動を想起し、話し合いの時に九洲で起こった地震の被災地を思いをはせながら、「もしもの時に、地域の人の役に立つことがしたい」という意見が多く上がり、子どもたちは「地域の防災」へと目を向けていった。

「防災」は目の前の子どもたちにとって、現時点では、身近で切実な課題とは言えないかもしれない。しかし、いつ直面するかわからない、重要な課題であることは間違いない。これまでの総合の経験を通して抱いた地域への思いを常に活動の中心に置き活動を展開していきたいと考えている。そのために、学級目標でもあり、子どもたちが単元にこめた「SMILE」＝「地域の人が、もしもの時に、少しでも笑顔になれるように」という思いの実現に向けて、真摯に、しかし怖くなく、前向きに地域の「防災」という問題と向き合っていくような展開を目指していきたい。

(2) 学習材について

②「学習材」として：「地域の防災」…災害時に地域の方が少しでも笑顔になれる情報を発信する

学習課題・対象	学習事項	期待する子どもの変容
○防災 ・防災センター ・区役所の防災担当者	・大きな災害時にどのようなことが起こり得るのか、また、どのような備えが必要なのか等、防災の基本的な考え方や仕組み	「地震体験では大きな揺れは、来ると分かっていても無くなってしまった。冷静な行動がとれるようにならないと、命にかかわる。そのために備えが必要だ。」
○地域 ・防災の防災訓練 ・地域の備え ・地域の危険箇所	・地域や家庭の備え、地域の方の防災に対する意識 ・防災の視点から見た地域の問題や防災に対する考え方や取り組み	「地域の防災訓練では、自分たちのことを考えて、プログラムを工夫してくれていて、ありがたいなと思った。」 「防災備蓄庫の中にあるものは、アレルギー食や辛い等、地域に住むいろんな人のことを考えて準備されているね。」
○キャリア ・区役所の防災担当者 ・町内会長	・災害時に地域の人の命や財産を守るために、知恵を出し合い、協力し合って取り組んでいる方々の思い	「区役所の方や、町内会長さんたちは、本当に戸部のまちのことを大事に考えているんだね。僕たちの活動にも期待してくれていることが伝わってきた。自分たちもその思いに応えたい。」

(3) 単元目標

「もしもの時(=大きな震災時)に地域の役に立ちたい」という思いの実現に向けて、震災時に地域のために自分たちができることについて考え、発信することを通して、自助・共助の視点から、自分自身が、また、地域の一人としてできることややらなければならないことがあることを知り、今後、いつ起こるか分からない災害と向き合い、自分たちができることを考え、取り組んでいこうとする。

(4) 単元で育てたい資質・能力

それぞれが飛べ ＜問題解決の資質・能力＞	過去の震災や防災センターでの学びから、もしもの時に必要なことについて分析し、それを視点として戸部のまちの震災時のリスクや備えについて体験したり担当者から話を聞いたりして情報を収集し見つけ出し、「もしもの時」に備えるために、戸部のまちの人にとって必要な情報は何かを考え、方法を工夫しながら表現・発信する。
みんなで調べ ＜情報力＞ 対話的に取り組む力	災害や避難を体験した方からもしもの時に必要なことを学んだり、区役所や町内会の防災担当者や関わりながら地域の備えや防災に対する考え方を学んだりする。また、「もしもの時」に地域の人の役に立つことは何か、友だちとアイデアを出し合ったり、よりよい発信を目指して方法や内容について話し合ったりする。
ゆめいっぱい戸部 ＜生活科・総合学習＞ 地域への愛着	もしもの時に自分たちの地域や自分自身の備えは十分なのか追及することを通して、戸部のまちの震災時のリスクについて知ると同時に、地域としての災害に立ち向かうとする人の考え方や防災の仕組みがあること等への理解を深め、地域の一人として自分ができるように災害と向き合っていけばよいか考え続けようとして、実践しようとしたりする。

(5) 本単元の学習活動の流れ

小単元の学習課題、学習活動、期待する変容	学びどころ <学習課題>
<p>I 「もしもの時」ってどんな時? ⑩</p> <p>○総合に対する思い、願いについて話し合い、そこで出た意見を視点として学習材やテーマを選定する。 ○防災センターを見学し、大きな災害時に起こり得ることについて調べ、大まかな活動計画を立てる。</p> <p>総合では、戸部のまちの人たちにとって、本当に役立つことに取り組みたい。最近熊本で大きな地震があったけど、地震の時に本当に困ることって何だろう。中島さんが、いろいろなものが倒壊する危険性について教えてくれたね。防災センターでは、いざという時の備えがどれだけ大事なのかを教えてください。こういう役立つ情報を集めて、発信していきたいね。戸部ならではの情報にしていきたいけど、戸部のまちの危険って何なのだろう?</p>	<p>【学びどころ①】</p> <p>総合に対する思い、願いについて話し合う中で整理された「もしもの時に、地域の役に立ちたい」という学級としての目的の実現に向けて、「もしもの時」についての理解を深めようとする活動に取り組む、被災地で活動した方の話を聞いたり、防災センターで体験をしたりして震災の恐ろしさや非常な問題について学んだことをもとに、いつ来てもおおくない災害に対して備えることへの切実感をもつ。</p> <p><防災></p>
<p>II もしもの時、戸部のまちは大丈夫? ⑪</p> <p>○地域を歩き、危険箇所について調べる。 ○まちの人にインタビューを行い、震災時の心配事について調べる。 ○防災訓練を通して地域の備えについて調べる。</p> <p>「3つの無い」の視点でまちを歩いてみると、戸部のまちの危険箇所が見えてきた。でも、これをそのまま伝えても、役立つものにはならない。夏休みの備え調べの結果から、メリット・デメリットが見えてきた。でもこれが本当に正しい情報なのか。中島さんが区役所での取り組みを教えてください。これらから大事な情報は自助だ。地域の人にとって本当に役立つ情報を発信していくためには、これからどんな活動に取り組めばいいの?</p>	<p>【学びどころ②】</p> <p>フィールドワークで地域の危険箇所について体験的に収集した情報をもとに、問題意識をもって地域の避難訓練に参加することを通して、戸部のまちには危険な箇所があるけれども、それを解決しようとする取り組みがあることや、地域が協力し合い、連携し合って、災害と向き合おうとしていることを知り、「互助・共助」の視点から、その結びつきを感じることが出来る。</p> <p><地域・キャリア></p>
<p>III 「自助」を確かにするために役立つ情報は? ⑫</p> <p>※本小単元</p> <p>「避難生活訓練を体験してみて、自分たちの備えは十分だし、そういうこと言ったらだめかもしれないけど、おいしくなくて、これが続いたら気分が沈むと思う。おいしくて暖かいものを食べられる準備が必要だと思った。夏休みに防災袋の準備を見直してみよう。大丈夫だと思っただけで、足りないものがあった。「こういう備えがいい」って伝えるのも大事だけれど、こういう訓練をすることが自分自身にとって大事だと思っただけで、この訓練を広めたいな。」</p>	<p>【学びどころ③】</p> <p>避難生活体験をするために、町内会や区役所の防災担当者の方に許可を得たり協力を依頼したりすることを通して、自分たちの学習活動を温かく受け止め、支えてくださる方々の存在を感じる。</p> <p><キャリア></p> <p>【学びどころ④】</p> <p>避難生活体験することを通して、「自助」の視点から自分たちの備えを見直し、足りないことや問題点を見つけたら、実際の災害時に起こりうることと関連付けながら改善したりする。</p> <p><防災></p>
<p>IV 「自助」を充実するための情報を発信しよう! ⑬</p> <p>○避難生活訓練の意義や価値を整理し、区役所や他の学校に提案する。 ○訓練を通して学んだことをリーフレットにまとめ、地域に発信する。</p> <p>当たり前のように中島さんに協力してもらっていたけど、いろんな学校でやるには、人や予算が必要なんだね。でも、区長さんも含めいろいろな人が真剣に聞いてくれたね。中学校にもこういう訓練が広がって続けられるといいな。地域の人に発信したことは、責任をもって自分自身も意識していきたい。</p>	<p>【学びどころ⑤】</p> <p>自分たちの活動の成果を地域に実際に役立つ形で発信し、そこでいただいた様々な反応を分析することを通して、自分たちも地域の一員として、大きな災害が起こった際には想定外のことや起こり得ること、だからこそ防災にはゴールがないことを受け止め、自分たちができることを考え、取り組むことを続けようとする。</p> <p><地域></p>

2 小単元構想

単元構想で整理した「学びどころ」を核とした探究の一つ一つの過程について、その時点での子どもの問題意識をもとに、「課題をもつ」「追究する」「振り返る」の三つの段階で、入り口と出口を明確にして構想を立て、それぞれの過程で身に付けさせたい資質・能力を、教科等との関連も意識しながら整理する。

(1) 小単元目標

- 小単元を貫く活動目的、学習活動、育てたい資質・能力、気付かせたい学習事項、期待するものの見方や考え方等の視点から整理されているか。

(2) みどりの視点と手立て

- みどりの視点が具体的な姿として分析されているか。
- 育てたい資質・能力が網羅されているか。また、ねらっている資質・能力の内容として妥当か
- 手立てが、教師の具体的な行為として明確にされているか。

(3) 関連する教科等

- 「育てたい資質・能力」の視点から関連付けられる教科等の学習活動や指導事項等が具体的にになっているか。

(4) 小単元の学習活動の流れ

- 「本小単元に臨む子どもの姿」が、それまでの学習活動や地域・家庭・学校の実生活に基づいて、どのような思いをもって、本小単元に臨んでいるのか具体的に分析されているか。
- 小単元の入力口(=問い)が子どもたちの思考の流れに沿ったものになっているか。

- 小単元の出口（＝答え）が入り口と対応しているか、また、見通しをもっているか。
- 一つ一つの学習課題のつながりが、子どもの思考や学習活動の流れに沿っているか。
- 子どもの具体的な姿が、学ばせたい内容や育てたい資質・能力をもとに、焦点化されて記述されているか。

2 小単元構想

Ⅲ 「自助」を確かにするために役立つ情報は？ (全25時間)

(1) 小単元目標
「自助」の視点から地域にとって意味のある情報を見極めようとする。避難所体験を企画・体験することで、地域の防災に携わる方や、被災された方の話をもとに、自分たちの備えの良さや問題点を分析したり、実際の災害によって生じる避難生活の困難さや、そうした情報を自分たちのために提供して下さった方々の思いを感じ取り、戸部のまわりの人々が「自助」の視点で備えを充実させていくようにするために自分たちができることは何か、考えていくとする。

(2) みとりの視点と手立て

みとりの視点	○手立て
<ul style="list-style-type: none"> 中島さんから教わったことをもとに、自分たちの調べた自助の視点から考えられる備え等について、地域の人にとって役立つ情報を得るための活動が何か考えていくとする。…① <思い・願い> 地域にとって自助の視点から必要な情報を判断するために、実際に被災地の方が感じたことを伺ったり、自分たちの備えで避難生活を体験したりしようとする。 <避難生活・対応> 	<ul style="list-style-type: none"> 中島さんから頂いた情報をもとに、今後の活動を考えることができるよう、良さ・問題点・疑問点の三つの視点で整理する。 疑問点の中で、自分たちだけでは解決できないと考えられる事項を取り上げ、伺い返す。
<ul style="list-style-type: none"> 中島さんから紹介していただいた熊本の地震で避難所になった学校の先生に、当時の避難生活の様子や改めて必要と感じた備え等について質問する。…② <まとめ・表現> 熊本の小学校の先生から教えていただいたことをもとに、自分たちの備えを見直す。 <整理・分析> 見直した備えの有効性を検証するために避難生活の訓練を計画し、分担して中島さんや町内会長さん、保護者の方に相談しながら訓練の実現に向けて必要なものを用意したり、計画を具体化したりする。 <協働> 避難生活の訓練を実施し、備えの有効性や足りないもの等について情報を収集する。 <情報収集> 	<ul style="list-style-type: none"> 手紙の書き方の資料を提示する。また、熊本の小学校の先生に活動の意図を伝えておく。 中島さんの話を聞いて振り返るよう助言する。 訓練の意図について保護者に伝え、協力を依頼する。また、全ての子どもが無理な参加できるように日時を調整すると同時に、安全・健康面から必要な物品・環境を整えることができるよう、地域の防災訓練の振り返りを取り上げる。
<ul style="list-style-type: none"> 避難生活の訓練を振り返り、自分たちが準備してきた備えのメリットやデメリットについて分析し、実際に必要な備えについて体験で感じたことを根拠に整理する。 <整理・分析> ③本時 訓練を通して分かったことや、訓練そのものの重要性について、地域に広めようとする。 <思い・願い> 中島さんの話や熊本の小学校の先生から教えていただいたことから、災害によって生じる困難さや、大変な中、また、決して楽しいものではない記憶を思い出しながら自分たちの活動に向き合ってくれた思いを受け止め、活動への思いを高める。 <気持ち> 自分たちで様々な情報を収集し、それをもとに考えを深めることができたことと同時に、人に聞いた情報の深さを自覚し、これからも様々な人に教わりながら学習を進めようとする。 <振り返り> 	<ul style="list-style-type: none"> PMI図を使って振り返りを整理する。特に、I(interesting)を重視し、今後の活動に対する発想を取り上げる。 「地域の人のために」という活動の根本的な目的に立ち戻って考えるよう助言する。 問題解決の過程の流れに対する考えだけでなく、日々の振り返りの中で感じたことについても記述するよう声をかけておき、立ち止まって、関わった人の思いについて考える時間を設定する。 自分たちの力で訓練を実現したこと、一方でそこにはたくさんの人の協力があつたことに気付いている発言を取り上げる。

(3) 関連する教科等

国語	①自分たちの活動の経緯とそこで生じた疑問を整理し、直接質問したり、教えていただいたことの中で大切なことを漏らさないようにメモしながら聞いたりして情報を収集する。
算数	②活動目的と疑問点を整理し、依頼したりお礼を伝えたりする際の書きを意識しながらメールの文書を考える。
	③家庭の災害に対する備えが十分かどうか4段階で評価したものをもとに、その割合を帯グラフに表し、特徴的結果を示している部分を見つめ、良さや問題点を読み取る。

(4) 小単元の学習活動の流れ

子どもの問題意識・「学習活動」・「維持する姿勢」

学びどころ <学習課題>

Ⅲ 「自助」を確かにするために役立つ情報は？

自分たちの情報は自助の視点から十分と言えるか？

自分たちの備えの分析結果等の情報を見直し、その有用性を検証するための計画を立てる。

○本小単元に臨む子どもの姿
「もしもの時」に地域の方のためにと考えた子どもたちだったが、「何をすればよいかを考えるには、自分たちは何も知らない」と考え、防災センターで体験やフィールドワーク、地域の避難訓練への参加、被災した方や復旧に携わった方へのインタビュー等、様々な方法で情報を収集して、「もしもの時」にはどんなことが起こり得るのか、ということを追及してきた。その中で区役所の防災担当の中島さんから「これからは『自助』に力を入れていくことが重要」ということを教えてもらった。今、子どもたちは『自助』の視点から、どのような備えが必要なのかを調べ、そこからわかっていることを発信しようという意図を高めている。

【学びどころ③】

○期待する姿
避難生活体験のために、町内会や区役所の防災担当の方に許可を得て協力をお願いしたりすることを通して、自分たちの学習活動を温かく受け止め、支えて下さる方々の存在を感じ取る。

○しかけ
子どもたちが、より地域の方々の協力を感じ取ることで、自分の言葉で協力を依頼し、活動を実現することができるよう、活動の意味・価値を繰り返す時間を十分に設定する。また、担任からも活動の意図を伝え、協力を依頼しておく。

自分たちで計画して、避難所体験をしてみよう。

避難所体験を計画し、体験を通して自分たちの備えが十分か、また何が問題か検証する。

○町内会の会長に、避難所を設置するのに必要なものを備蓄庫から借りてほしいとお願しよう。訓練に向けて、どんな準備が必要か中島さんに相談して準備をした方がいいね。

○避難生活の体験
非常食は、家で試食したときはお湯で調理しただけ、水だけで調理すると、本当の時は、そんなこと言っていられないと思うんだけど、正直おいしくなくて、これが続くと思うときがあった。

○量も、半日で全部なくなりました。三日間というのを考えると、足りないと思う。

○今回は、まだそんなに寒くはなかったけど、もう少し後だったら寒さきつくなってくると思った。

自分の身を守るために必要なことは何だろうか？

体験を通してわかったことを整理し、今後の取り組みについて考える。

○正直、今回の訓練のためにわざわざ準備したのもある。この訓練がなかったら、準備してなかったものがある、ということ。

○備えの身を発信していくことも大事だけど、こういうより本格的な訓練を広くしていくことも大事なのではないかな。

Ⅳ 「自助」を充実するための情報を発信しよう

【学びどころ④】

○期待する姿
避難生活体験を通して、「自助」の視点から自分たちの備えを見直し、足りないことや問題点を見つける。

○しかけ
実際に学校に宿泊し、体験的な情報収集ができる活動を設定する。活動に向けて、保護者に協力を依頼する。また、体調面等を考慮し、実際の対応について区役所の中島さんに配慮すべき事項等について、健康・安全を確保するために入念に打ち合わせを行う。

3 授業づくり

前時までの子どもの学びの様子をみとり、小単元構想で設定したみとりの視点と照らし合わせながら期待する変容を明確にし、そのための教師のはたらきかけ（＝本時のしかけ）を考え、その教師の意図を「本時の学びどころ」として整理し、「つかむ」「ふかめる」「ふりかえる」の視点から1時間の授業の計画を立てる。

(1) 本時目標

□学ばせたい内容・育てたい資質能力を意識しながら記述されているか。

(2) 本時に向かう子どもの姿

□学習カードや活動の様子をもとに、具体的にみとることができているか。

(3) 本時の学びどころ

□座席表をもとに、学級全体の傾向、考え方や取り組み方のまとまりやつながりが分析されているか。また、小単元構想のみとりの視点と照らし合わせながら、学級の状態について分析されているか。

□期待する変容が具体的な記述や発言、行動としてイメージされているか。

□期待する変容をもとに、本時の手だての中心となる「しかけ」が具体的に考えられているか。

(4) 本時の展開

□本時課題が明確になっているか、また、妥当か。

→子どもは本時に向けてどんな思いをもっているのか、何をしたいのか、ということが正しくとらえられているか。

また、子どもが本気で話し合ったり、取り組んだりしたいことになっているか。

□「つかむ・ふかめる・ふりかえる」という三つの過程が整理されているか。

□「ふかめる」にせまるための教師の発問等が明確になっているか。

子どもにとって意味のある1時間の授業をつくっていくためには、当面の問題解決のひとまとまりである小単元構想が重要であることはもちろんのこと、さらには、年間を見通した活動目的が明確になった単元構想が重要であり、そのような単元を支える学習材である必要がある。授業づくりに視点をあてることは、単元構想・小単元構想を軽視することではない。1時間1時間の授業における子どもの姿という事実をもとに、小単元、単元、学習材について評価し、改善を図っていく、ということである。

3 研究テーマを具現化するための視点と取り組み

(1) 「つかむ」「ふかめる」「ふりかえる」の三つの過程の整理

① 「つかむ」…課題の明確化、話し合いの可視化

「つかむ」とは、本時課題に対して学級としてどのように向き合っているのか、ということ教師が把握し、子どもが自覚する段階である。例えば、①体験的な情報収集を経て子どもたちが多様な情報を共有するような拡散的な学習であれば、そのまとまりやつながり、子どもの興味関心がどこにあるかを捉えることであり、②複数の対象から何かを選んだり、対立する意見について議論したりするような収束を目指していくような学習であれば、議論に決着をつけ、合意形成していくための論点をつかんだりすることである。

この段階を確かなものにするために、まずは、課題が前時までの学習活動の中で、子どもの思いや願い、必要感をもとに、子どもの言葉によって整理されたものであること、そして、そのような課題に対する一人一人の子どもの気付きや思考のまとまりやつながりを、板書やホワイトボード等を活用し、可視化していくことが重要である。また、生活科においては、体験的な活動を通して自分自身の対象との関わり方を見つめ直し、「もっと～したい」という思いや願いをもてるように支援していくことも考えられる。

② 「ふかめる」…話し合いの焦点化・明確化

「ふかめる」とは、「つかむ」の段階で見えてきた子どもたちの事実をもとに、本時の課題に対して結論を出していく段階である。例えば、①「つかむ」で拡散した意見の中から、課題に立ち戻って、より意味・価値のある事実や考え方を見出したり、②収束に向けて話し合う中で見えてきた論点や新たな課題について話し合いを重ねたりすることである。

この段階を確かなものにするために、「つかむ」で可視化された学級として思考の足跡（板書・ホワイトボード等）や、子どもの具体的な発言をもとに、考えるべき課題を発問や板書等で明示することが重要である。また、子どもが思考を深めていくための助けとなる資料を提示したり、これまでの取り組みを振り返るように促したりすることが必要になることもある。生活科においては、「つかむ」の段階で抱いた思いや願いを実現できるよう学び合いを促すことや、場や時間を保障すること、声かけ等、個に応じた適切な手立てを行うことが求められる。

③ 「ふりかえる」

「ふりかえる」とは、「ふかめる」で考えたことをもとに出した結論や、明確になった新たな課題を子ども自身が自覚し、次の活動への見通しをもったり、自分なりの考えを整理したりする段階である。前時の学習活動が本時につながっているように、本時の学習活動が次時の活動へとつながっていく。「ふりかえる」の段階までの子どもの思考の流れや活動の姿に沿って、視点を明確にしたり、方法を工夫したりし、適切な振り返りが行えるよう支援していきたい。そうすることで、本時の入り口から質的に高まった「～したい」という「夢」をもてるようにしていきたい。

(2) 育てたい資質・能力の明確化

(1) で述べた授業の三つの過程のうち、①「つかむ」②「ふかめる」を確かなものにしていくためには、子どもたちがどのように思考しているのか、ということ教師がみとり、可視化していくことが欠かせないのは前述の通りである。そのためにも、まずは教師が「この1時間は、どのような思考をするのか（拡散か収束か、絞るのか選ぶのか…等）」ということを含め、どのような資質・能力を育てたいのか、ということを明確にもっておくことが重要になる。新指導要領に向けて資質・能力について様々な議論がなされ、新たな考え方が出されてきている今、1時間の授業づくりを確かなものにしていくためにも、改めて本校の子どもたちに育てたい資質・能力を明確にしていきたいと考え、資料①・②の通りに整理し直した。

資料①：資質・能力系統表

目指す子どもの姿	視 点	低学年	中学年	高学年
それぞれが飛べ 課題解決の資質・能力	<課題の把握> 夢の実現に向けて解決すべき課題を見出して設定し、その解決に向けて、構想を立てる。 <u>推論・見通し・順序立て等</u>	夢を実現するために何をすればよいか考えたり、必要なものを準備したりしようとする。	夢の実現に向けて、今、何をすべきかを明確にもち、またそのために必要なものを準備したり、取り組みの順番を考えたりする。	夢の実現に向けて、見通しをもって解決すべき課題を設定し、予想や仮設を立て、必要なもの・ことを具体的に順序立てて構想を立てる。
	<情報収集> 手段を選択したり方法を工夫したりしながら情報を収集する。	身体を通して関わったり、対象に直接働きかけたりしながら、比較したり、分類したり、関連付けたり、視点をええたりして対象を捉え、違いやよさを見つめる。	課題に沿って他者と関わったり、試行錯誤したりしながら方法を工夫して情報を集める。	課題に沿って他者と関わったり、方法を吟味し、工夫し、体験したり、調査したりして情報を集める。
	<整理・分析> 課題に沿って、収集した情報を、整理・分析し事実をとらえる。 <u>比較・分類・関連付け・焦点化等</u>	良さを生かしたり、試したり見立てたり予測したり、見通しをもったりして創りだす。	課題に沿って、理由付けしながら、評価・選択・順位付けを行ったり、要約・構造化したりする。	課題に沿って、焦点化された事柄について、理由付けしながら、評価・選択・順位付けを行ったり、要約・構造化したりする。
	<まとめ・表現> 整理・分析して捉えた事実をもとに、課題に沿って、自分の考えをもつ。また、必要に応じて方法を工夫しながら相手や目的を意識して表現する。 <u>評価・選択・順位付け・要約・構造化・理由付け等</u>	相手に伝わるように様々な方法で表現したり、相手にとって分かりやすく表現したりする。	自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、相手や目的に沿って、方法を工夫しながら伝える。	自分の意見や立場を、根拠を明確にしながら、相手や目的に沿って、方法を工夫しながら伝える。
みんなで翔べ 協働的・対話的な態度	<協働> 夢の実現に向けて力を合わせて活動に取り組む。	友達と一緒に、互いのことを気かけ合いながら協力して活動し、そのよさを感じ取る。	友達の存在を意識し、一緒に活動するよさを大切にしながら、課題の解決に向けて力を合わせて活動する。	友達と互いに信頼し合いながら、課題の解決に向けて役割を分担したり、支えあったりして力を合わせて活動する。
	<対話> 仲間や対象と双方向的に関わり合う。	互いの良いところを見つけて共感したり、自分と違う意見や考え方があることに気付いたりして、それを自分の考えに生かそうとする。	相手が伝えようとしていることを意識しながら聴き、自分の意見と比べ良さや違う点を見つけたり、つなげたりしようとする。	相手の立場や意図を意識し、自分の考えと比較しながら、批判的に聴いたり、共感できる部分を見つけたりし、一緒に新たな見方や考え方を生み出そうとする。
ゆめいっぱい戸部 主体性・自己理解・地域への愛着	<自己理解> 自己の成長や変容を見つめ直し、可能性に気付いたり、自信をもったりする。	体験や活動を通してできるようになったことや新たにわかったことを見つめ直し、その変化や成長に気づき、自信をもったり自分らしさを大切にしようとしたりする。	課題解決の過程を通してできるようになったことやわかったことを見つめ直し、解決の仕方やものの見方や考え方が変化・成長したことを自覚し、自信をもったり、自分らしさを大切にしようとしたりする。	
	<気付き> 追究を通して出会う、戸部のまちの「ひと・もの・こと」のよさに気付く。	追究を通して関わった対象の不思議さや楽しさ、自分との関わりに気付く。	追究を通して関わった対象のもつ意義や価値、学習活動を支えたり見守ったりしてくれた人々の存在や、戸部のまちには魅力的な「ひと・もの・こと」があふれていることに気付く。	
	<思い・願い> 戸部のまちに夢をもち続け、その実現に向けて、主体的に、粘り強く追究し続ける。	自分自身の家庭や学校・地域での生活を振り返り、 <u>やりたいこと（＝夢）</u> を見つけ、よりよい活動や生活を目指して自分から進んで取り組もうとする。	生活経験や学習経験を見つめ直し、興味・関心のあることから、 <u>自分たちの力で成し遂げたい目的（＝夢）</u> をもち、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。	生活経験や学習経験、実社会の問題等を見つめ直し、 <u>戸部のまちにとって意味や価値があると考えられる目的（＝夢）</u> を見出し、その実現に向けて粘り強く取り組もうとする。

資料②：概念的知識

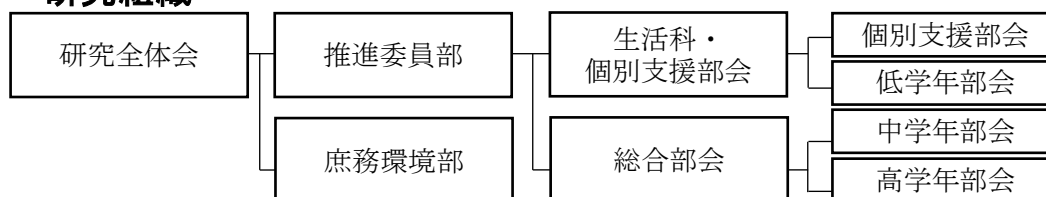
学 習 課 題		概 念	事 実 的 知 識 に 基 づ く 概 念 的 知 識
全 て の 学 習 材 に 共 通	地 域 ・ 学 校	多 様 性 相 互 性 責 任 性 連 携 性	・ 戸 部 の ま ち や 学 校 に は 、 魅 力 的 な ひ と ・ も の ・ こ と が た く さ ん あ ふ れ て い る と い う こ と 。 ・ そ れ ら は 、 自 分 た ち の 生 活 と つ な が っ て い て 、 自 分 た ち の 生 活 を 豊 か で 持 続 可 能 な も の に し て い る と い う こ と 。 ・ 自 分 も 地 域 や 学 校 の 一 員 と し て 、 よ り よ く 地 域 や 学 校 と 関 わ っ て い く 必 要 が あ る と い う こ と 。
	キ ャ リ ア	連 携 性 多 様 性	・ 地 域 に は 自 分 た ち の 活 動 を 温 か く 見 守 り 、 支 え て く れ る 人 が た く さ ん い る と い う こ と 。 ・ 身 の 回 り に は 優 れ た 知 恵 や 技 、 熱 い 思 い を も っ て 、 真 摯 に 仕 事 や 取 り 組 み に 打 ち 込 ん で い る 人 が い る と い う こ と 。
そ れ ぞ れ の 学 習 材 に 固 有	環 境 ・ 生 命	相 互 性 有 限 性	・ 身 の 回 り の 自 然 環 境 (身 近 に 存 在 す る 動 植 物 等) は 、 自 分 た ち の 生 活 を 含 め 、 つ な が り 、 関 わ り 合 っ て い る と い う こ と 。 ・ 身 の 回 り の 自 然 環 境 (身 近 に 存 在 す る 動 植 物 等) は 有 限 で 、 大 切 に 守 っ て い か な け れ ば な ら な い と い う こ と 。
	文 化	多 様 性 公 平 性	・ 身 の 回 り に は 先 人 が 築 き 上 げ て き た 様 々 な 文 化 (こ と ・ も の) が あ り 、 そ こ に は そ の 文 化 に 固 有 の 思 い や 知 恵 が 凝 縮 さ れ て い る と い う こ と 。 ・ 自 分 が 属 す る 文 化 と は 異 な る 文 化 が 存 在 し 、 そ こ に は 尊 重 す べ き 見 方 や 考 え 方 が あ る と い う こ と 。
	も の づ く り	多 様 性 連 携 性	・ 自 分 た ち の 手 で 何 か を 創 り 上 げ た り 成 し 遂 げ た り す る こ と で 生 活 が 豊 か で 持 続 可 能 な も の に な る と い う こ と 。
	防 災 ・ 安 全	連 携 性 責 任 性	・ 身 の 回 り に は 、 自 分 た ち が 安 全 ・ 安 心 し て 暮 ら せ る よ う な 様 々 な 仕 組 み が あ る こ と や 、 そ の た め に 努 め て い る 人 が い る と い う こ と 。
	食 ・ 健 康	公 平 性	・ 自 分 た ち の 生 活 の 中 に は 、 健 康 に 生 き て い く た め の 知 恵 や 、 そ れ を 普 及 し て い く た め の 取 り 組 み 等 が あ る と い う こ と 。
	福 祉	公 平 性 連 携 性	・ 地 域 に は 多 様 な 人 が 暮 ら し て い て 、 互 い に 支 え 合 い 、 尊 重 し 合 っ て い る こ と 。 ま た そ の た め の 仕 組 み が あ る と い う こ と 。

「多様性」…いろいろある 「相互性」…関わり合っている 「有限性」…限りがある
「公平性」…一人一人大切に 「連携性」…力を合わせて 「責任性」…責任をもって

※「概念」については、国立教育政策研究所「学校におけるESDに関する研究」を参考

IV 研究方法

1 研究組織



- ・ 推進委員部…研究計画の立案、研修会の運営
- ・ 庶務環境部…指導案印刷・発送、教育環境整備
- ・ 各 部 会…指導案検討・授業研究会事前検討・授業後の協議会

2 具体的な取り組み

(1) 研究全体会

- 4月：年度当初に年間計画や研究内容について共通理解を図る
- 5月：実際の授業を通して、具体的な内容について理解を深める
- 夏季：夏季休業前までの実践をもとに、研究内容を見直し、夏季休業後の計画を確認する
- 2月：実際の授業を通して、年間の取組について振り返り、次年度に向けての課題をまとめる

(2) 研修会

- ・生活科・総合的な学習の時間に関する最新情報について、ワークショップ等を通して本校の研究との関わりの視点から理解を深める
- ・他教科との関連について、資質・能力の育成、アクティブ・ラーニング等の視点から、講師を招いて学習する。(今年度は国語と理科)

(3) 授業研究会

①授業研究会のねらい

単元構想・小単元構想・授業作りの実際を互いに見合うことで、良いところを学び合ったり、相互評価し合ったりすることで、学びの充実を図る。

②授業研究会のもちかた

時期	やること
～3週間前	・いろいろな職員に相談し、自分なりにやりたいことを明確にする。
～2週間前	・部会で指導案をもとに、学習材の選定、小単元構想についてのチェックポイントを中心に検討する。 ・部会后、推進委員会をもち、話題を共有したり、話し合ったりする。
～1週間前	・部会、推進委員会の内容を受けて修正後、部会で確認し、指導案の発送をする。
～前日	・子どもの様子を学習カード等でみとり、座席表に整理する。 ・『本時の学びどころ』『本時のしかけ』、本時課題、本時目標、評価規準を設定し、本時案をまとめる。 ・板書計画を部会で検討し、授業の構想を練る。特に、思考の構造や流れが可視化されるような思考ツールを用いた板書の工夫について考える。 (朱書き、資料印刷、掲示物等、授業に必要な手立てを考え準備する。)
当日	・授業を行う。全力でがんばる。 ・部会(学年)で授業記録をとる。 ・参観者は「参観カード」を記入する。感想だけでなく疑問を必ず書く。 ※研究内容を具現化する視点、授業の視点を意識しながら授業を見る。 ・推進委員の担当者が中心となり集約する。 ・部会や全体会で授業を振り返る。 ※「本時の学びどころ」を中心に話し合う。

(4) 研究発表会

- ・全学級授業を公開し、協議会を通して外部の方からの意見や講師の先生方からの指導・講評をいただき、年度末に向けて今年度の実践を振り返る。
- ・研究座談会を通して、今年度の本校の取組についての成果と課題について考察する。

3 研究の振り返り、まとめについて

- ・子どもの育ちについて、①学習カードや授業記録などの子どもの具体の姿と、②総合・生活科で学んだことや育ちに対する子どもの意識調査をもとに検証し、各実践の成果と課題について、部会を中心に振り返る。
- ・12月の研究発表会や2月の授業研究会に、年間を通してご指導いただいた先生からの指導・講評をいただき、それをもとに、推進委員会が中心となって研究の成果と課題について整理する。
- ・2月の授業を伴う研究全体会を通して、今年度の成果と課題についてまとめ、次年度の研究の方向性について議論する。

4 研究日程

日程	種 別	内 容
4 / 4	研究全体会①	「今年度の研究について」
4 / 15	三校合同研修会	29年度全国大会に向けての主題理解研修
4 / 26	研修会①	「単元の立ち上げについて」
5 / 10	研修会②	「生活科・総合に関する動向について」
5 / 26	研究全体会②	「今年度の研究について」 講師 嶋野先生 奈須先生 竹田先生 大内先生 授業者：鈴木(6-2)
6 / 10	授業研究会①	講師： 授業者：花村(2-2) 遠藤(4-1) 遠山(6-1)
6 / 23	授業研究会②	講師：田村先生 倉澤先生 授業者：片岡(1-1) 大西・今井(個別) 堀内(4-2) 小川(5-1)
7 / 1	授業研究会③	講師：島本先生 授業者：堀(1-2) 小野田(2-1) 高橋(3-1) 武藤(3-2) 吉川(5-2)
7 / 21	研究全体会③	「戸部小学校で子どもに育てたい資質・能力について」
7 / 22	研修会③	「国語科で大切にしたい資質・能力と授業づくり」 講師：白幡小学校教諭 小水亮子先生
7 / 25	研修会④	「理科で大切にしたい資質・能力と授業づくり」 講師：竹田惇子先生
7 / 26	研究全体会④	「実践の振り返りと、今後の取り組みについて」
8 / 25	研究全体会⑤	「研究計画の見直しと、後期の見通し」
10 / 14	授業研究会④	講師：大内先生 竹田先生 山本先生 寶來先生 斎藤先生 榮先生 授業者：大西・今井(個別) 堀(1-2) 小野田(2-1) 高橋(3-1) 堀内(4-2) 鈴木(6-2)
10 / 21	授業研究会⑤	講師：倉澤先生 竹田先生 永野先生 授業者：片岡(1-1) 花村(2-2) 武藤(3-2) 小川(5-1)
10 / 28	授業研究会⑥	講師：藤井先生 島本先生 後明先生 永野先生 授業者：遠藤(4-1) 吉川(5-2) 遠山(6-1)
12 / 3	研究発表会	「夢をもち、夢を実現する子ども ～『つかむ・ふかめる・ふりかえる』1時間の授業づくり」
2 / 23	研究全体会	「今年度の振り返りと、次年度の方向性について」